

レコード針 1本から受注

約2200種類ものレコード針を、たった1本から受注生産する老舗メーカーの3代目。音楽がデジタル配信される時代だが、縫い針を作っていた祖父が1949年に蓄音機用に始めた「家業」を守り続けている。

生命保険会社で働いていた92年、前社長の父・弘さん（昨年、84歳で死去）が体調



を崩して入院。経営を手伝ってほしいと家族に頼まれ、入社した。当時、CDの台頭でレコード針の国内需要は激減。会社は、レコード針に使う工業用ダイヤモンドの技術を活用して、医療用具や工場用工具の製造に乗り出すなど、多角化を進めていた。

ただ、レコード針の注文は海外から細々と入っていた。レコード鑑賞が富裕層に定着していたのだ。「欲しい人が1人でもいる限り、作り続けよう」。父の言葉に励まされ、2004年、海外の消費者に

直接レコード針を販売するウェブサイトを開設。針の修理サービスも始めた。顧客は約200か国・地域に広がり、販売個数はこの5年間で1.7倍に。年商5億円の25%を稼ぐ収益の柱に返り咲いた。

世界的なレコード復権の動きも追い風となっている。「ネット配信に慣れた若者が、親世代の古いレコードに物語性を感じて聴き始めている。この波に乗りたい」とスピーカーの開発を指示した。「少しでも良い音で、心豊かな時間を過ごしてほしいから、私どもは変わり続けます。お客様

日本精機宝石工業社長 仲川 和志さん 52 兵庫県新温泉町

の期待を、いい意味で超えていきたい」と力を込める。